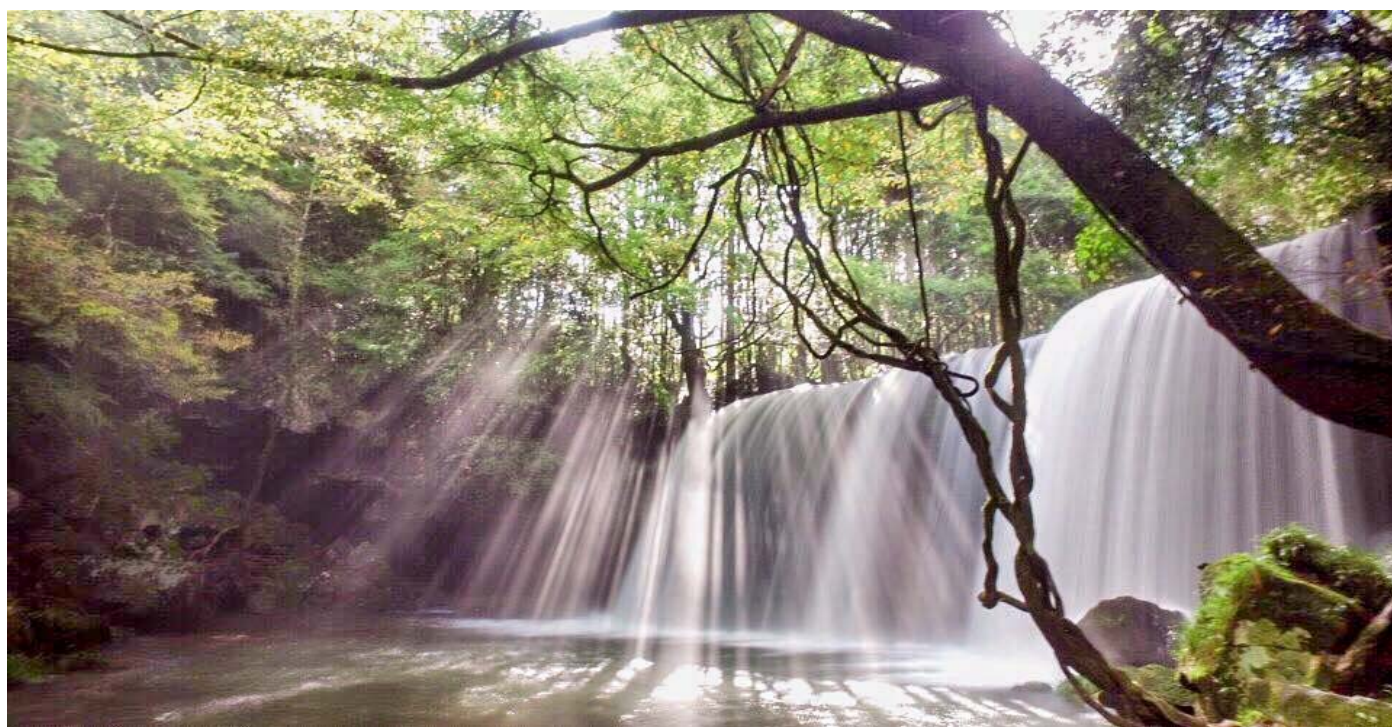


# 環境報告書 2018

Environment Report



『人と技術』を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指すと共に、豊かな環境作りに貢献します。



当社は、ステークホルダーの皆様の期待に応えるため、常に『品質を確保し、よいものを、安全に、より安く、より早く完成させる』という気持ちを持ち、社員一丸となり事業に取り組んでおります。

よいものを作って初めて社会に貢献でき、認められ続けることで存在価値のある会社になります。

しかし、よいものを作るだけでは、社会に認められる集団にはなり得ません。当社では社会から必要とされる企業となるために、社会的ニーズである環境への取り組みにも力を注いでおります。

本報告書を通じて、私達の環境への取り組みを理解していただくとともに、皆様からの声を聞かせていただける機会になればと思っております。

企業価値を生み出す源泉である『人と技術』を大切にしながら、OSJBホールディングスグループの中核企業として、更なる価値向上に努めてまいります。

これからも、ステークホルダーの皆様方への感謝の気持ちと謙虚さを忘れずに事業に邁進してまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。

オリエンタル白石株式会社  
代表取締役社長

**大野 達也**

## 目次・会社概要

### 目次

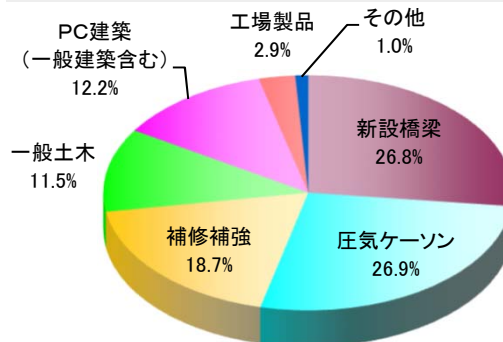
社長挨拶	1	環境に配慮した技術開発	9
目次・会社概要	2		10
環境経営	3	品質マネジメントシステムと	11
環境目標	4	労働安全衛生への取り組み	
環境マネジメントシステム	5		12
法令の遵守	6	地域とのコミュニケーション	16
事業活動とマテリアルフロー	7		
廃棄物排出量と低減対策	8		

### 会社概要

社名	オリエンタル白石 株式会社
本社所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
代表者	代表取締役社長 大野 達也
創業	1952年10月21日
資本金	5億円
従業員	650人(2018年3月31日現在)
事業所	本社、東北支店、東京支店、大阪支店、福岡支店 技術研究所、名古屋営業支店、広島営業支店、四国営業支店、沖縄営業支店 22営業所、3工場、5機材センター
事業内容	プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売 ニューマチックケーソンの建設工事 補修補強の建設工事 耐震補強建築工事の設計・施工 建設資材の販売 太陽光による発電事業及びその管理・運営並びに電気の供給、販売

#### 売上構成

2017年4月1日～2018年3月31日(第67期事業年度)



### 作成及び発行について

発行目的	社内外の皆様へ、当社の環境関連情報等を開示すること
対象範囲	オリエンタル白石株式会社 本支店、技術研究所、営業所、工場、機材センター、各工事作業所
対象期間	2017年4月1日～2018年3月31日(第67期事業年度)
対象分野	対象組織の環境活動
発行責任者	取締役 執行役員(安全・品質・環境担当) 橋本 幸彦
担当部署	安全・品質・環境管理室
参考資料名	「環境報告ガイドライン(2012年版)」環境省

## 経営理念

### 人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す

#### 【行動規範】

私達の“意義”と“責任”と“可能性”

～私達が、私達であるために～

1. 私達は、「顧客第一の」<sup>オリエンタル白石</sup>私達であるために、常に高品質、高機能の建設物を提供し、カスタマーやユーザーのニーズに応える集団であり続けます。
2. 私達は、「競争力豊かな」<sup>オリエンタル白石</sup>私達であるために、技術の開発と革新に努めて、個人の能力や組織力を高めるとともに、時代や社会の変化に対して、スピーディーかつ的確に対応できる集団であり続けます。
3. 私達は、「社会から必要とされる」<sup>オリエンタル白石</sup>私達であるために、コンプライアンスを徹底し、地球環境に配慮しながら良質の社会資本を構築・整備することにより、社会に貢献する集団であり続けます。
4. 私達は、「安定して発展する」<sup>オリエンタル白石</sup>私達であるために、信用と評価を大事にしながら、堅実な経営、情報の開示に努め、活力あふれる集団であり続けます。
5. 私達は、「信頼しあえる」<sup>オリエンタル白石</sup>私達であるために、快適で働きやすい職場を形成し、お互いの人格を尊重して、能力やモチベーションを高めあい、所属する誇りと《愛着ある帰属感》に満ちた集団であり続けます。

## 品質・環境方針

### 【基本理念】

わが社の事業活動である土木構造物の設計、製造、施工及び建築構造物の製造、施工により提供するサービスは、社会資本の整備・維持や地域社会及び地球環境に深く関わっています。

その関わりの中で、経営理念「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す」に基づき、自らの“意義”と“責任”と“可能性”を発揚する行動規範に則って、能力・資質の向上、システムの維持、継続的な改善、意識の高揚、安全で豊かな環境作りを目指し、次のことを行います。

### 【基本方針】

- ① 社会のニーズに応える品質と信頼を提供し、社会資本の整備・維持に貢献する。
- ② 社会的責任の強い自覚のもと、関係法令及びわが社が同意した協定・要求事項を順守すると共に活動を通じて経営理念を実現する。
- ③ 設計、製造、施工のイノベーションを実行して、高品質・低コスト化を成し遂げ、この飽くなき継続に努める。
- ④ 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクル活動を推進し、環境保全と汚染の予防を自らに課せられた責務として、積極的に取り組む。
- ⑤ 省資源、省エネルギー、低炭素を可能とする技術開発に尽力し、地域社会に貢献するとともに、地球環境に配慮した技術提案を行う。

わが社は上記を確実なものとするために、社員ならびに関係者に方針を周知し、各部門毎で目標を設定・管理します。常にマネジメントや品質・環境管理システムが円滑かつ効果的に機能するよう、PDCAを通じた改善活動を全ての社員ならびに関係者が一丸となって行います。

2018年4月1日

## 環境目標

当社では、『環境報告書2018』にて、環境情報の公開を行います。当社は経営理念である「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団」の実現を目指して、環境活動の目的・目標を以下のように掲げます。

環境経営の推進に努め、環境保全への取り組みを積極的に情報公開することにより社会に対する説明責任と環境コミュニケーションを図ります

【目標】『環境報告書2018』による環境情報公開

工事施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減目標設定とその実現に向けての行動を展開します

【目標】日建連のCO<sub>2</sub>排出量調査活動への参加によるデータ収集と蓄積

混合廃棄物の排出量削減により、最終処分量の削減を図ります

【目標】建設混合廃棄物の排出量を前年比10%削減

環境に配慮した技術開発に積極的に取り組みます

【目標】提案・受注による環境活動の実施

# 環境マネジメントシステム

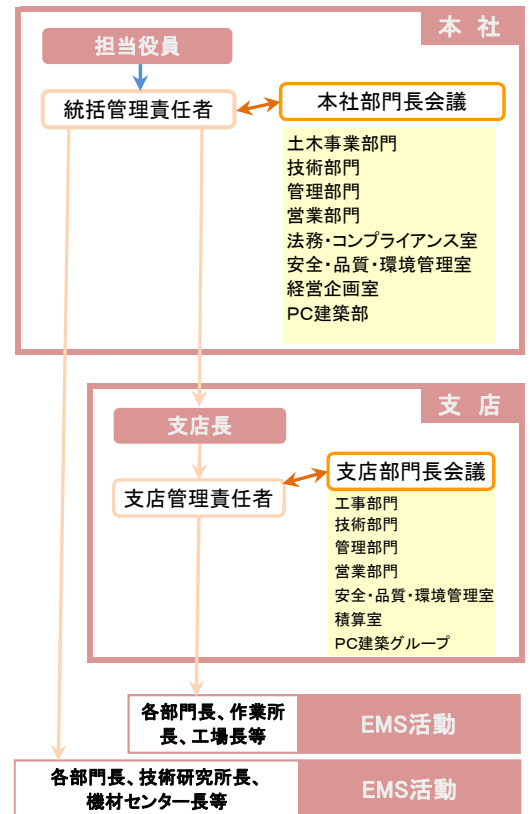
## 環境マネジメントシステムへの取り組み

当社は2002年から全社の事業活動を対象に環境マネジメントシステムを構築し運用しています。2003年3月31日からISO 14001:1996 (JIS Q 14001:1996) に基づく環境マネジメントシステムを取得し、2005年8月に2004年版への改定、2007年10月に合併による全面改訂を実施しました。2018年3月31日からISO 14001:2015 (JIS Q 14001:2015) に改定し運用しています。

## 環境マネジメントシステムの組織体制

担当役員は、全社での環境保全活動を確実に実施し維持するために統括管理責任者を任命しています。全社的な活動の検討は、本社の関係部門長が参加する本社部門長会議にて実施しています。本社での検討結果は、統括管理責任者を通じて各支店長へ展開されます。

支店長は、支店での環境保全活動を確実に実施し、維持するために支店管理責任者を任命しています。支店での活動の検討は、支店の関係部門長が参加する支店部門長会議にて実施しています。支店での検討結果は、管理責任者を通じて各部門長等へ展開され、EMS活動が実施されます。



## 監査結果

2017年度に行われた内部監査は、上期・中間期・下期の3回に分けて実施し、結果は右の通りです。注意事項等については全て改善又は是正処置が実施されました。(監査結果は品質と環境合わせて)

内部監査実施状況		
内部監査人員		85 人
内部監査実施	部門	179 箇所
	作業所	39 箇所
監査結果	不適合	1 件
	注意	4 件
	推奨	46 件

2017年度に行われた外部審査の結果は右の通りです。不適合事項については全て改善又は是正処置が実施されました。

外部審査実施状況		
EMS第5回再認証及び移行審査	2018年1月16日～2018年1月24日	
認証の継続及び移行の承認日	2018年2月23日	
審査登録機関	一般財団法人 建材試験センター	
審査サイト	本社、東京・大阪各支店	
審査結果	重大な不適合	0 件
	軽微な不適合	4 件
	観察事項	7 件

## 法規制遵守 環境監視 測定実施状況

事業活動において遵守されなければならない環境法規制は多々あります。環境基本法に定めている「7大公害」及び廃棄物に関する法律が主なものです。

工事作業所では、遵守しなければならない環境法規制を工事着工前に特定し、必要な対策を検討し、実施しています。工場においても遵守しなければならない環境法規制を特定し、規制値をクリアするため管理値を定めて管理しています。



### ■ ケーソン現場における騒音対策

法律に定める特定建設作業における騒音の抑制のため、ケーソン送気設備を防音ハウスにて覆っています。



### ■ 工事現場における産業廃棄物の保管

廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき産業廃棄物の保管を行っています。



### ■ 工場における排水測定

水質汚濁防止法に基づき排水時にpH調整を行い高アルカリ水の排出を抑制しています。定期測定の結果、3工場全てにおいて基準値を超える排出がないことを確認しています。



### ■ 工場におけるリサイクルシステム

コンクリートプラント、ホッパー等の洗い水を砂利、砂、水、ケーキ（スラッジの圧搾かす）に分離して一部リサイクルに活用しています。